

Web 開催,2020.10.1-23

Day3 時の発育遅延がみられる胚盤胞の有用性

大浦 朝美¹⁾、佐藤 学¹⁾、中岡 義晴¹⁾、森本 義晴²⁾

医療法人 三慧会 ¹⁾IVF なんばクリニック、²⁾HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】 Day3 時に 4 細胞以下の胚 (遅延 D3 胚) でも胚盤胞 (BL) まで到達することがある。そのような胚を移植する意義があるのか、通常の BL との違いは何か後方視的に検討した。

【方法】 検討 1 : 患者同意を得て 2019 年 4 月~8 月に採卵、タイムラプスインキュベーター (iBIS、ASTECC) で遅延 D3 胚を BL まで培養した 171 周期 338 個の胚を対象とし、Gardner 分類で BL3BC 以上に発生した(遅延 D3BL)割合、第一および第二卵割の正常率と臨床的妊娠率、流産率を調べた。検討 2 : 検討 1 のうち遅延 D3BL が含まれた 31 周期を対象に第一および第二卵割が正常で、D5 に遅延 D3BL になった 8 個(遅延 D3BL 群) と遅延 D3 胚ではなく正常発育した 46 個(BL 群)に分け、PN 消失 (tPNf)、2 細胞(t2)、4 細胞 (t4)、5 細胞 (t5)、Compaction 開始 (tC)、Blastulation 開始 (tB) の到達に要した時間 (tPNf-t2、t2-t4、t4-t5、t5-tC、tC-tB) を比較した。

【結果】 検討 1 : 遅延 D3BL は 10.1%(34/338 個)存在し、第一および第二卵割の正常率は 47.1%(16/34 個)、臨床的妊娠率は 31.3% (5/16)、流産率は 40% (2/5) であった。検討 2 : BL 群に比べ遅延 D3BL 群の tPNf-t2 (3.5h vs. 4.9h)は有意に早かった (P<0.05)。一方で遅延 D3BL 群の t2-t4 (15.7h vs. 11.3h) と t4-t5(20.5h vs. 12.7h)は BL 群に比べ有意に遅かった (P<0.05)。

【考察】 少数ではあるが、遅延 D3 胚であっても妊孕性のある BL が含まれており、胚盤胞まで培養を中止しないことも考慮する必要がある。細胞周期に要する時間が与えている影響は不明であることから患者への説明の上で移植が望ましいと考えられる。